

第1回定例会の 主な日程

令和5年第1回定例会は、以下の会期日程で開催されました。

- 2月28日(火) **本会議**
(開会、知事提出議案説明)
- 3月3日(金) **本会議**
6日(月) (代表質問・質疑)
- 3月7日(火) **本会議**
8日(水) (一般質問・質疑)
9日(木)
10日(金)
- 3月14日(火) **常任委員会**
15日(水)
- 3月17日(金) **本会議**
(予算関係議案常任委員長報告等)
- 3月20日(月) **予算特別委員会**
3月22日(水)
- 3月24日(金) **本会議**
(委員長報告、採決、閉会)

代表質問※1(要旨)



伊沢 勝徳 議員
いばらき自民党
土浦市選出

県政運営の基本方針

議員 県民の命を守ることと併せて、コロナ禍で傷ついた社会経済を回復させることや、新たな市場を求め、積極的に海外に打つて出ることなどが重要と考える。どのような方針・方向性で県政運営を担っていくのか。

知事 今後はコロナと共生し、社会経済活動の正常化を目指す段階へと大きな転換期を迎えている。コロナ禍が明けつつある今こそ、トップギアでグローバルに打って出なければ、本県のさらなる発展は実現できないとの思いを強くしており、茨城が世界に向けて大きく飛躍できるようにしっかりと差別化を図っていく。

議員 デスティネーションキャンペーンをはじめ、大型イベントを活用した茨城の魅力発信と観光誘客

議員 デスティネーションキャンペーン

ンペーン※2(DC)をはじめ大型イベントなどを活用し、国内外への魅力発信と観光誘客にどう取り組むのか。

知事 DCについては、プレキャンペーンで得た本県の強みや課題も踏まえ、話題性のある攻めのプロモーションを展開しながら、観光誘客を促進していく。また、全国育樹祭やG7内務・安全担当大臣会合についても、さまざまな茨城の魅力を発信することにより、本県の知名度を高め、観光需要の喚起や地域の活性化につなげていく。さらに、インバウンド需要の早期回復に向け、旅行会社への営業活動やSNSを活用したデジタルマーケティングなど、誘客プロモーションを強化していく。

議員 つくばエクスプレスの県内延伸 県内延伸を四つの方面案から一つに絞った後、巨額の建設費用の負担をどうするかなど難しい課題もある。県内延伸の実現に向けてどう進めるのか。

知事 莫大な総工費が予想され、その費用を本県だけで負担することは困難であり、国の支援や関係都県からも費用負担の在り方を含む事業スキームの合意を得る必要がある。また、東京延伸と併せて実現することで多大な相乗効果が得られ、首都圏の発展にも大きく寄与すると考えている。二つの延伸を一体的なものとして、実現に向けた検討や調整を進めていく。

議員 女性の活躍推進 今後、本県のさらなる発展を考えると、多様性を認め合い尊重し、女性が個性と能力を十分に発揮して、輝き活躍できる茨城づくりを進めていくことが重要である。女性の活躍推進にどう取り組むのか。

知事 県独自に作成したダイバーシティ推進のための指標「いばらきダイバーシティスコア」を企業に広く活用いただき、ワークライフバランスや、多様なキャリアパス、育児からの復帰支援など、「働き方改革」の進捗を見える化し、多様な人材が働きやすい環境づくりを後押ししていく。また、経済団体と連携し、管理職を目指す女性職員向け研修会などを拡充していく。



延伸が期待されるつくばエクスプレス

議員 長寿社会における高齢者の活躍 長い人生で培った多くの知識や経験を持つ高齢者は地域社会の貴重な財産であることを再認識し、長寿社会の中で活躍できる施策を展開することが必要と思うが、どう取り組むのか。

知事 スポーツや文化活動を通じて社会参加や、社会貢献を希望する高齢者を「元気シニアバンク」に登録し、公民館や福祉施設などへ派遣する取り組みを進めるとともに、奉仕活動や健康づくりなどに取り組む「老人クラブ」の活動を支援していく。また、eスポーツについて、2024年の「ねりんピック」鳥取大会から正式種目に採用されたことなども契機に、新たに高齢者対象の競技会を開催するなど、取り組みを拡充していく。(ほかに、茨城農業の更なる発展、地域防災力の向上、明日の茨城を支える人財育成なども質問)

●質問者 こちらから録画映像でご覧になれます。

3月3日(金) **伊沢 勝徳** (いばらき自民党)

3月6日(月) **高崎 進** (公明党)

齋藤 英彰 (国民民主党)

https://ibaraki-pref.stream.jfit.co.jp/?tpl=gikai_result&gikai_id=162

「誰もが輝く持続可能な茨城を担う人づくり調査特別委員会」を設置しました

社会は多様な職種や立場の協働によって構成されており、一つでも欠けるものがあれば成り立つことはできません。そして、その社会を持続可能なものとするためには、誰もが個々の能力を発揮し、活躍することで協働の輪を維持していく必要があります。しかしながら、出生数は全国・本県ともに減少の一途をたどっているほか、生産年齢人口についても右肩下がりの様相を呈するとともに、不登校の急増をはじめとした新たな問題も顕在化するなど、希望の持てる次世代の人づくりが危ぶまれる状況が生じています。こうした社会の根幹に関わる課題は、総じて一朝一夕に解決できるものではなく、長期的な視点に立ち、未来を見据えて種をまく展望の下に取り組まなければなりません。

そこで、後世に「あの時代があったからこそ今の繁栄がある」と実感してもらえ、将来にわたって本県の活力を維持するため、その諸方策の在り方について調査・検討を行う「誰もが輝く持続可能な茨城を担う人づくり調査特別委員会」を、3月24日の本会議において設置しました。構成する委員15名は次のとおりです。

| | | | |
|------|-------|----|--------|
| 委員長 | 伊沢 勝徳 | 委員 | 松田 千春 |
| 副委員長 | 西野 一 | | 木本 信太郎 |
| 委員 | 海野 透 | | 山本 美和 |
| | 田山 東湖 | | 高安 博明 |
| | 星田 弘司 | | ヘイズジョン |
| | 金子 晃久 | | うの のぶこ |
| | 沼田 和利 | | 金子 敏明 |
| | 村田 康成 | | |

※1 [代表質問] …会派を代表して行う質問のこと。茨城県議会の場合には、4人以上の会派が代表質問を行う。なお、議員個人の立場で行う質問を一般質問という。
※2 [デスティネーションキャンペーン] …JRグループ6社と地域が一体となり、全国に向けて集中的な誘客宣伝を実施する国内最大規模の観光キャンペーン。令和5年秋に本県で実施予定。